

大阪府保育士会だより



ほほえみ

平成 27 年 6 月 1 日
第 101 号
大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺 1-1-54
TEL 06-6762-9001

平成 27 年度事業計画

- 4 月 20 日
27 年度総会
「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領について」
＝講師 馬場耕一郎氏
「絵本で子どもたちに伝えたいこと」
＝講師 長谷川義史氏
- 6 月 30 日
保育士研修会
「保育に役立つ 7 つの話～聴くだけで保育が楽しくなる講座～」
＝講師 原坂一郎氏
- 7 月 9・10 日
近畿ブロック保育研究集会(京都市)
- 8 月 17、19、25 日の 3 日間
保育士の専門性を高める連続研修会
(園長・リーダー・主任保育士研修会)
①「心の育ちを支える保育(仮題)」
＝講師 肥後功一氏
「親の便利、子の不便(仮題)」
＝講師 猪熊弘子氏
②「リスク・マネジメント(仮題)」
＝講師 掛札逸美氏
「職員が辞めない職場、育つ職場(仮題)」
＝講師 砂上史子氏
③「コモンセンスペアレンティングとは(仮題)」
＝講師 堀 健一氏
- 9 月 14 日
保育士研修会
「子どもの幸せ・親の幸せと保育・子育て支援」
＝講師 伊藤良高氏
「桜山保育園の保育・子育て支援
～温かな風を吹かせる地域のオアシスを目指して～」
＝講師 伊藤美佳子氏
- 10 月 21、22 日
全国保育士会研究大会(千葉市)
- 11 月 11～13 日
全国保育研究大会(山口市)
- 11 月 24 日
保育士研修
「子どもの遊びと環境(仮題)」
＝講師 樋口正春氏
- 28 年 2 月(日時・場所未定)
保育士研修会
「子どもの育ちを支える指導計画、実践と自己評価
(仮題)」
＝講師 大方美香氏
- 28 年 2 月(日時・場所未定)
全国保育士研修会



「コミュニケーション能力の向上を 「人を育てる」ための基本―新年度を迎え

大阪府保育士会会長 高田テルミ

子どもたちの新しい春がはじまり、新制度もいよいよ4月からスタートしました。こども園に移行された施設においては、一層お忙しい日々をお過ごしのことと思っています。そんな中、4月20日の保育士会総会に300名を超える会員の皆さまにお集まりいただきました。改めてお礼申しあげます。

さて、私たち保育者は「人を育てる」というお仕事をしています。

今ほど便利な世の中

で、携帯電話・スマートフォンやインターネットを通して私たちは日々さまざまなコミュニケーションツールを利用していますが、その反面、心を通わせる丁寧なコ

話をよく耳にしますが、コミュニケーション能力は生まれもった才能ではありません。どんなに多くの場数を踏んでいるかだと思えます。キャッチボールと同じよう

表情や声のトーン、アイコンタクト、スキンシップ、沈黙など、相手をより理解するために、実際のコミュニケーションには、難しい

皆さんには、コミュニケーションの手段を上手に使い分けてほしいと期待しています。

保育士会では、平成27年度もさまざまな研修を予定してあります。保育のニーズも多様化し、私たちさら

に専門性を身に付け高

に、何度も練習を重ねて、相手に、度々も練習を重ねて、相手とタイミングを合わせるトレーニングをすれば、誰でもコミュニケーション能力は向上していきます。

顔をみて、目を見て、自分の言葉で想いを伝え、相手の気持ちを读み取ることで、それは「人を育てる」ためには必要不可欠だと私は考えます。ましよう。

子育て支援シリーズ ④

多彩な支援メニューで保護者の心つかむ

集団遊び「親子サークル」0歳児「びよびよひろば」 地域含め「かるがもランド」―堺市 石津川保育園

石津川保育園では子育て支援の取り組みとして、年齢別の親子サークルを行って、います。半年単位でチームを作り、家庭ではできない集団遊びや親同士の交流など、みなさんに好評です。

また、0歳児の親子広場を「びよびよひろば」と名づけて毎月開いています。この「ひろば」では、地域の保健師や栄養士、園の看護師による相談、絵本やリトミックの講師によるさまざまな親子のふれあい遊びを教えてください。



戸惑いを持つ方も少なくありませんが、終わればみなさんから笑顔がこぼれます。2年前から有資格者の保育士による「わらべうたべビーマッサージ」を始め、毎回多くの方が参加されています。マッサージ中の親子の楽しそうな顔、そのあと気持ちよく眠るわが子に、満ち足りた表情のお母さんを見ると、保育者も幸せな気分になります。

土曜日には在園・地域の親子向けに「かるがもランド」という広場を開いています。0歳から就学前の親子に集まってもらい、季節の遊びを中心に企画。なかでもクッキングや公園でのお花摘み

同士の思いやりの気持ちが育っているようすがうかがえます。

「かるがもランド」では年1回、助産師さんを招き「いのちの話」をしていただきます。内容は人形や映像を使い、子どもにも分かりやすく、いのちの大切さ、自分を守る

中には、妊娠時や出産時のことを思い出される方もあるようです。日々の子育てに、ついイライラすることもあると思われますが、いのちの話を通し、保護者の方もわが子を見つめ直すきっかけ作りになっていると思えます。

これからも子育ての楽しさを感じてもらえるさまざまな支援を続け、地域の子どもたち一人ひとりの成長を見守ることができればと願っています。

平成27年度保育士会総会・記念講演

認定こども園法など現場の疑問交え解説

馬場氏

絵本読み聞かせは子どもの反応大切に

長谷川氏

平成27年度保育士会総会が4月20日、330名が参加し、大阪国際交流センターで開催されました。

育士会長が挨拶、来賓を代表し大阪府福祉部子ども室

総会では参加者全員で全国保育士会倫理綱領を読み上げたあと、高田テルミ保



馬場耕一郎氏

の中岡恭子室長が祝辞を述べられました。

また、主催者側の前保育部会長で現顧問の高岡國士氏、大阪府社会福祉協議会常務理事の井手之上優氏が挨拶。議事では平成26年度事業報告、収支決算、27年度事業計画、収支予算がそれぞれ承認されました。

* * *

引き続き馬場耕一郎氏（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育指導専門官・保育室運営事業専門官）と絵本作家の長谷川義史氏の記念講演が行われました。

馬場氏は『幼保連携型認定こども園教育・保育要領について』をテーマに、認定こども園法と教育・保育要領の内容を説明。主に教育保育要領第1章の総則は各章を貫く基本的考え方を示していること、2章はねらいや内容など、3章は指導計画作成に配慮すべき事項が規定されていることを、保育現場の疑問などを交えて解説されました。

長谷川氏のテーマは『絵本でこどもたちに伝えたいこと』。「僕が面白いと感じることを、子どもたちも喜んでくれる」と話され、『しってるねん』など6冊の絵本の読み聞かせを披露されました。「一語一句、言葉通り読まなくていい。ノリで読んでほしい」と、子どもの反応を大切にすることを、子どもたちへの読み聞かせの重要性を指摘。また、模造紙に即興で、幼い頃のお母さんとの思い出を『ふじいのよっちゃん』の肉屋のチーズ」と題して描き、誰もが経験したことのある幼い頃の懐かしい内容に会場も和やかな雰囲気。締めくくりはウクレレを手に『保育園ブルース』を熱唱、「ガンバってください」とエールを送られました。（高槻市 K・H）



長谷川義史氏

●リスク・マネジメントは多岐にわたる

「リスク」の本来の意味は、「なんらかの価値を失う可能性(危険性)」という意味です。「価値」には金銭やモノも含まれますが、子どもの命、保護者との信頼関係、人材も含まれます。

保育園にとって、命や信頼、そこで働く人はとても大きな「価値」でしょう。

リスク・マネジメントとは、このように「価値あるもの」が失われたり、損なわれたりしないよう取り組むことです。この連載ではいくつかの側面から、多様なリスク・マネジメントについてお話ししていきます。

●社会的責任というリスクプール活動を例に

他人の子どもを預かる保育園にとっては、子どもの命そのものと同様に、「子どもの命を守るために、すべきことをしているのか」という社会的責任も大きなリスクとなります。例えばこれからの季節であれば、プール事故の予防と対策に取り組んでいるか、です。

プール活動は、数分間、異常に気づかなければ、子どもの命が失われる、または脳に障がいが残る、そのような危険な場所にわざわざ子どもを集団で入れて遊ばせる活動です。そして、いつ、どの園で、どの子どもにも異常が起こるかは予測できません。

ですから、「私の園でも、プール事故が起こる可能性がある」という前提で、「異常な状態の子どもに早く気づく態勢」と、「異常に気づいたらすぐに救急要請をし、心肺蘇生をする態勢」をとっておくことが不可欠となります。

結果的に子どもの命を救えたか、ではありません。「監視を怠らない」「救急車をすぐに呼ぶ」「心肺蘇生をする」などの社会的責任を果たしたかどうかが問題であり、過去数年間に起きたプール死亡事故で問われているのは、その部分です。

●リスクを保護者に伝える

「私たちは、どのような態勢でプール活動の安全を確保

する取り組みをしています。そして、態勢が整わないと判断した場合は、当日であってもプール活動を中止します。ご了承ください」と、プール活動が始まる前に全保護者に伝えてください、と私はお話ししています。

「プール活動を頻繁にする園は良い園」「保育園のプールは安全」という勘違いが保護者の中にもあるようです。これは長年にわたり、保育園や幼稚園が保護者のニーズに次々と応えてきた結果でしょう。

けれども、保育者は水泳の指導員でもなければ、ライフセーバーでもありません。一般のプールや海水浴場にプロのライフセーバーが配置されているのは、水がそれだけ危険な環境だからです。素人の保育者が、ま

学びシリーズ32

保育におけるさまざまなリスク・マネジメント「社会的責任」の視点から取り組むリスク・マネジメント

保育の安全研究・教育センター代表 掛 札 逸 美

してや片手間で安全を確保できるわけではないのです。この事実を保育園、幼稚園、保護者が理解しない限り、プール事故は間違いない存在を明確に認識して、

それを保護者に伝えることが社会的責任の第一歩であり、プール死亡事故というリスクを扱う方法のひとつです。「うちのプール活動は安全です。毎日でもします」と言うのは簡単ですが、監視態勢や救命行動が不適切

な状態で死亡が起これば、社会的責任を問われます。

●気づかない、のが人間

「園のプールは小さいし、見ていけば大丈夫」とおっしゃる方もいます。残念ながら、よく動き回る幼児の場合には特に、小さいプールだからこそ危険になります。

幼児が狭いプールの中で、潜ったり水に顔をつけたり泳いだりといった行動をしていると、一人ひとりを見分けることはとても困難です(しかも水面下は非常に見づらい)。プールの中に子どもがたくさんいたら、人数は把握できません。一人の子どもが「見えない」ことに数分間、気づかなか

たら...? そして、気づかないのが人間なのです。実験結果を羅列するまでもなく、人間は注意が続かず、うわの空になりやすく、ひとつのことに気をとられるとまわりが見えなくなる生き物です。暑い中、ただぼんやり見ていたら「視れども見えず」です。

「監視役を立てる」という社会的責任を表面的に果たすだけなら、一人をプールのそばに立たせて、じっとさせておけばよいでしょう。でもそれ自体、ほぼ無理です。本人もついあちこちに動いてしまいます。周囲も「立っているだけなら手伝わって」となります。

監視役という責務を果たしたいなら、「子どもが異常な状態になることはある」「姿が見えなくなることはある」という前提で、一人ひとりが「いる」ことを確認する行動(例:指さし声出し確認)を続けましょう。「手伝わって!」と言われたら、「私は監視中です」とはっきり言ってください。

そして、特に幼児の場合一人ひとりの存在を確認できないほどの数の子どもをプールに入れない、前後に他の予定を入れない、一人ひとりの子ども(特に幼児)の顔と名前が一致している保育士を監視役に立てられない場合は、プール活動を中止する、といった決断が不可欠です。こうした決断自体が、「他人の子どもを預かっている施設の果たすべき社会的責任」です。

「私たちが、どのような態勢でプール活動の安全を確保する取り組みをしています。そして、態勢が整わないと判断した場合は、当日であってもプール活動を中止します。ご了承ください」と、プール活動が始まる前に全保護者に伝えてください、と私はお話ししています。

「私たちは、どのような態勢でプール活動の安全を確保する取り組みをしています。そして、態勢が整わないと判断した場合は、当日であってもプール活動を中止します。ご了承ください」と、プール活動が始まる前に全保護者に伝えてください、と私はお話ししています。

「私たちは、どのような態勢でプール活動の安全を確保する取り組みをしています。そして、態勢が整わないと判断した場合は、当日であってもプール活動を中止します。ご了承ください」と、プール活動が始まる前に全保護者に伝えてください、と私はお話ししています。

地域とともに
ふれあひ大切に

「普段からの交流」を实践 老人施設訪ね折紙のコマまわし

―世代間でふれあう大切さ―

東大阪市 めだか保育園

「めだか保育園」は東大阪
市東部、東に生駒山を臨み、
西に恩智川が流れる位置に
あります。

ます。入居者の方が窓から
手を振ってくださり、互い
に挨拶を交わすようになって
たのがきっかけです。

田畑が多く田園風景が広
がっていた地域ですが、数
年前から老人施設が増えて
きたそうです。その一つ、
高齢者向け住宅「なごみの
家」と始まった交流を紹介
しましょう。

今年4月27日、年長児28
人が訪問、入居者のみなさ
んの前で歌を3曲と体操を
披露。その後、入居者の方
が子どもたちのために作っ
ておられた折り紙のコマを、
おじいちゃんやおばあちゃ
んとペアになり、子どもた
ちが交代でまわし合いを楽
しました。

「入居されていますが、なご
みの家」はその道筋にあり

子どもたちと一緒にコマ
まわしがはじまると、

みなさんの表情がいき
いきとしはじめたのが
たいへん印象的でした。

「入居されている方と
園児の祖父母とでは年
齢に20歳ほどの差があ
り、初めての訪問の時
は、お互いの関わり方
がわからない状態でし
た。しかし、敬老の日
など特別な日だけでな



など特別な日だけでな

大阪・泉州の「しいの実
こども園」（阪南市）は2
年前に園舎の建て替えを行
い、園児はもとより保護者、
保育士にも機能的な園とし
て運営されています。

建て替える時、クラスの
間に大きなウッドデッキテ
ラスを設置。太陽光が射し
込み、風を感じるテラスで
す。

各クラス子どもたちは
時間をずらしながらテラス
で楽しんでいきます。暑い日
の海からの風の涼しさ、寒
い日でも太陽がのぞいた時
の暖かさ。子どもたちは四
季を肌で感じます。外靴に
履き替える必要がなく、寝
転んでもOK。乳児クラス
も安心です。

「普段の日の交流日を作
り、年に何度か訪問するう
ち、子どもたちも上手にコ
ミュニケーションがとれる
姿が見られるようになって
きています」と仲津幹子園
長は話されています。

散歩コースは季節や自然
の環境に応じた工夫が特色
です。地域をよく知ってい
る園ならではの。乳児クラス
の散歩は体調などに無理の
ないよう配慮されています。

「保育の工夫―現場を訪ねて―」 各クラス時間差で楽しむ ウッドデッキテラス設置 経験積む多彩な散歩コースも ―阪南市 しいの実こども園―



これはの経験
は絵を描くとき
に現れます。海を青色と決
めつける子どもが少ないの
もその一つでしょう。近く
の神社では四季の花や木々
を楽しめるのももちろん、

「交流」の姿だと改めて感じ
させられました。おじいち
ゃん、おばあちゃんと子ど
もたちが自然に言葉をかけ
ふれあい、遊びに興じる姿
はとても素敵です。核家族
が多く同居世帯が少ない現
在、世代間で交流する機会
を作ることの大切さを実感
しました。

（東大阪市 S・H）

雰囲気につづく機会になる
ようです。

散歩コースは海や山、田
畑などですが、例えば海な
ら、年長、年中の子どもた
ちは多彩な色を
見せてくれる海
を知っています。
そこにとん
な生き物がいる
のかな、と興味
を抱き観察を始
めることもある
ようです。

乳幼児期から経験を積み
重ねることで、子どもたち
の考え方や協調性を育てる
ことができるのでしよう。

だからこそ子どもたちが見
たまま、肌で感じたままを
大切に、保育に繋げてい
けたらと思っています」と
子どもたちへの思いを話さ
れていました。

（阪南市 Y・Y）

後記

新制度とともに、平
成27年度がスタート
し、ようやく落ち着い
てこられた頃かと思
います。

保育士会は総会を
無事に終え、役員改選で新し
い常任委員を迎えました。

保育園のマンパワーを地
域に活かせるよう、さらに研
鑽を高められる研修会を計

お祭りや露店が開かれ、経
験はさらに広がります。

保育教諭の山野由里子先
生は「園内環境と地域の環
境を理解したうえで、いろ
んなことを子どもたちに経
験させ、発見させ、その「気
づき」や発見を誰かに伝え
られることを大切にしてい
ます。

気候が大きく変動します
が、お互い健康に十分留意し、
今年度も子どもたちの笑顔の
ために頑張りますよー！

何かと保育士不足で頭を
抱えておられることかと思
いますが、園長先生はじめ主
任、保育士の皆さま方の多数
のご参加をお待ちしてい
ます。

画してあります。

（阪南市 Y・Y）

（東大阪市 S・H）